

第6回教育委員会（定例）議事録

1 開 会

令和4年9月7日（水） 14時00分

2 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301.302会議室

3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊
委 員 西田 正志
委 員 垣内 敬造
委 員 山本 恭子
委 員 鈴木 友美

4 会議に出席した職員

学校教育部長 西羅 忠和
こども未来部長 稲山 悟
社会教育部長 小林 康弘
学校教育次長 岸田 幸雄
こども未来次長兼保育教育課長 西嶋 睦美
教育総務課長 中野 悟
学校教育課長 浅田 智広
学 事 課 長 山本 毅
教育研究所長 大野 圭一
東部学校給食センター所長 石田 哲也
西部学校給食センター所長 齋藤 昭
子育て企画課長 竹見 朋子
社会教育課長 谷掛 昭二
文化財課長 村上 由樹
中央図書館長 小畠 理三
田園交響ホール館長 酒井 直隆
総 務 課 長 河南 剛
中央公民館長 大路 和浩
子育て企画課課長補佐 山鳥 有史
教育総務課係長 田中 真紀子

5 議事日程及び議案

別紙の通り

6 開会宣言

14時00分

7 会 期

（自）令和4年9月7日

（至）令和4年9月7日 1日間

8 会議録署名委員名簿

垣内 敬造 委員

9 閉 会

15時32分

丹後教育長 全委員 丹後教育長	<p>日程第1、令和4年度第5回会議録の報告、承認について意見等はないか。異議なし。</p> <p>全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。</p>
丹後教育長	<p>日程第2、会議録署名委員は2番垣内委員とする。</p>
丹後教育長	<p>日程第3、会期は令和4年9月7日、本日1日間とする。</p>
丹後教育長	<p>日程第4、議案に移る。議案第10号の『「令和3年度実績 教育委員会の点検・評価」について』教育総務課説明を求める。</p>
中野課長	<p>《議案書に基づき説明》</p>
西田委員	<p>14頁、「子どもの体幹を鍛える取組」の【課題と次なる展開】に、家庭内での取組に、「デカンショ踊りの普及など」を挙げている理由は何か。</p> <p>15頁、「放課後児童健全育成事業の充実」の【課題と次なる展開】に、「小学校の教室を借りるなど」と記載があるが、本来学校施設は市施設であるので、「借りる」の表現は適切でないと思う。</p> <p>24頁、「小中連携心のサポート事業の実施」の【実績と成果】の記載内容について、これは生徒指導の云々というより、ユニバーサルデザインの学校をつくるという視点で事業が組み替えられたと思っている。この事業の書き方全体について、その視点での記述が相応しいと思う。</p> <p>27頁、「学校施設の充実」の【実績と成果】で、「小中学校の普通教室等の照明LED化改修工事」とあるが、幼稚園は入らないのか。</p> <p>31頁、「家庭教育支援事業の実施」の【課題と次なる展開】に記載ある「ブティブリ」はNPO法人なのか。わかりやすい表記にすべきと思う。</p> <p>34頁、「保幼小連携の強化」の【実績と成果】の記載内容が、幼稚園側から小学校に対して何かをしたという書きぶりであるが、幼小連携の主体は受入側の小学校ではないかと思っている。そういう考え方でこの事業を取り組み記載したほうが良いと思う。同様に小中連携は中学校、中高連携は高校が主体である。</p>
大野所長	<p>24頁、「小中連携心のサポート事業の実施」のことについて、「ユニバーサル」は、令和4年度から全ての中学校区で取り組み、令和3年度は1中学校区でモデル実施だったため記載していない。令和4年度実績には記載する。</p>
西田委員	<p>来年度実績からは、事業説明部分からユニバーサルを前面に出した記載への変更もすべきである。</p>
竹見課長	<p>15頁、「放課後児童健全育成事業の充実」の「借りる」表記は、書き方を考え直す。</p>
山本委員	<p>34頁、「保幼小中高大の連携」について、大学との連携はどのように推進しているのか。その目標を達成できているのか。毎年同じ書き方のため内容</p>

西田委員	が見えにくいと感じる。
中野課長	今までには京都大学と連携して講座を開催したり、幼児教育の関係で大学との連携があったが、今はどんな連携をしているのか。
岸田次長	本市教育委員会は、親和女子大学、兵庫教育大学と連携協定を締結している。令和3年度は、親和女子大学は学生がスクールサポートスタッフとして小学校と児童クラブ運営に参加いただいた。
西田委員	京都大学との連携、サイエンスキッズ教室は、コロナで昨年度も今年度も県外に学生を派遣できないため中止となっている。今年度は代替事業を検討している段階である。
中野課長	「大学との連携」という項目はないのか。
西田委員	教育振興基本計画「きらめき教育プラン」には掲載はある。点検・評価をする事業対象が、概要版に記載しているもの限定としているので、今回については「大学の連携」については記載していない。来年度は検討する。
丹後教育長	以前はどこの大学と連携をすると決めて教育委員会として取り組んでいたが、最近はややふやになっている。状況に応じた連携があると思うので固める必要はないが、教育委員会として、これについてはこの大学と連携して取り組んでいるというスタンスをはっきりした方がよいと考える。
丹後教育長	ご意見いただいた部分について、記載の表現違いはすぐ対応し、方向性の部分については、今後に向けて検討する。
全委員	議案第10号の『「令和3年度実績 教育委員会の点検・評価」について』採決をする。修正を反映した状態の原案どおりという意味であるが、異議はないか。
丹後教育長	異議なし。
丹後教育長	全員賛成で、議案第10号の『「令和3年度実績 教育委員会の点検・評価」について』原案どおり可決する。
丹後教育長	日程第5、報告事項に移る。報告1「寄附採納について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
垣内委員	いつも寄附には感謝している。教育委員会で報告される寄附申出は基準があるのか。学校への寄附も報告されているのか。
田中係長	申出者が寄附と申出をされたら「寄附」扱いとし、教育委員会で報告をしている。寄附申出者にも公開になる旨を説明をしている。また価格が10万円相当以上になると市議会でも報告もするので、それについても合わせて説明している。
垣内委員	学校への寄附は校長から教育委員会へ報告があるのか。
田中係長	学校も体制が変わる毎年4月には、教育委員会事務局から学校長に、寄附

鈴木委員	<p>申出があれば教育総務課に報告するよう、取扱事務を周知をしている。</p> <p>No.1 は、子育てふれあいセンターへの寄附であるが、子育て関係各施設に寄附されたもの全てが教育委員会で報告されるのか。</p>
田中係長	<p>子育てふれあいセンターは、現在教育委員会の所管なので教育委員会で報告をした。教育委員会で報告をしているのは、市施設への寄附であり受託事業所への寄附は含まない。</p>
山本委員	<p>No.2 について、1,000 冊以上の寄附をいただき、幼稚園・認定こども園・小中特別支援学校等に配布されるということであるが、書籍の種類は全て異なっているのか、またどの書籍をどこの施設に配布するというのはどのように決めるのか。</p>
田中係長	<p>バザールタウン篠山NEWS館2階には、株式会社さとう様が運営されている、幼児から小学校高学年のこどもを対象とした図書館「たんたん文庫」がある。この度「たんたん文庫」が閉館されたことにより、所蔵書籍についてさとう様から申出をいただいた。</p> <p>書籍は、絵本、図鑑、伝記、昔話、童話、折り紙の折り方、ことばを学ぶ書籍など様々な書籍であり、重複したものはない。</p> <p>各学校園・施設等への振り分けについてであるが、目録がなかったため、学校図書館支援員、園図書担当職員、児童クラブ職員、預かり保育施設職員・ふれあいセンター職員が「たんたん文庫」に行かせていただき、各担当者が頂きたいと思う書籍を約 5,000 冊の中から選ばせていただいた。素晴らしい蔵書であったと聞いている。選書基準は、各学校園や施設にない書籍、または現在所蔵していても保存状態が良くない書籍である。今後、学校園等に図書を搬入し、図書目録を作成する予定で、それをまとめた時、寄附いただいた書籍名一覧が完成する。</p> <p>本日、学校図書館支援員が教育研究所資料室で配本作業をしているので、ご覧いただければと思う。</p>
山本委員	<p>たんたん文庫はよく利用させていただいた。素晴らしい書籍を所蔵する図書館であった。その書籍の多くが学校園等に配っていただくことを、とてもありがたいと思う。</p>
丹後教育長	<p>報告 2「後援名義の承認について」教育総務課報告を求める。</p>
田中係長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>No.1 丹波篠山春日神社の鉾山復活についての新聞記事を読んだ。把握しているなら、復活の経緯について担当課からの説明を求める。</p>
村上課長	<p>鉾山は全部で 9 基あり、今回はそのうち下河原町の鳳凰山と河原町の三笠山が復活されると聞いている。街中を自由に巡行できるのではなく、無電柱化されたエリアで動かされる。ゆくゆくは他の鉾復活もされたいと聞いている。詳細がわかればまた報告をする。</p>

丹後教育長	報告 3「丹波篠山市子育て支援に関するアンケート調査の結果について」子育て企画課報告を求める。
竹見課長	《議案書に基づき報告》
山本委員	<p>就学前の子育てについての結果を見ると、私自身は子育てをしやすいまちだと思っていたが、色々な立場の方の意見があって、子育て世代には多様なニーズがあると分かった。ただ予算も限りがあり、今ある資源を活かし、丹波篠山の良さを活かして、SDGs の視点で、今後研究精査をしていただきたい。</p> <p>全体を通して感じることであるが、子育て世代は、子どもの居場所に困っていると感じた。これは就労の有無に関わらずで、最も切実なものに待機児童がある。保護者のニーズに合わせて、利用したいのに利用できない状況をどうしていくのかを考えていただけたらなと感じた。</p>
鈴木委員	アンケート結果を各担当課に情報提供をすると説明があったが、関係各課以外への情報提供もあるのか。
山鳥課長補佐	アンケート結果は、来年度予算等への反映や、すぐに改善できるものも含まれている。アンケート作成に関わった担当課にはもちろん詳細なデータ提供をして今後につなげていく。またこの情報をどこまで外部や内部に提供するか、どのように活用できるかについて検討する。
竹見課長	<p>情報提供についての補足であるが、担当課への情報提供はもちろん、子育て支援以外の市事業について自由意見欄に回答いただいたものについても、各担当課につなぐ。</p> <p>待機児童と子育て世代のニーズに合わせての支援について、待機児童も早急に解消しなければいけないと思っている。来年度予算にも保育園での増築も予定している。また、やむなく保留児童となり在宅で育児をされる方もあるので、その方への支援も十分協議し来年度にできるところから始めていく。</p>
山本委員	アンケート調査結果は、市民へ公表するのか。
竹見課長	現在のところ市民への報告はしない方向で考えている。あくまで庁内での今後の施策に向けての活用資料と考えている。
鈴木委員	資料 3 頁、「問 8 子育てふれあいセンターに、たんなん子育てふれあいセンター以外のセンターも、土曜日開所してほしい」の意見があるが、この意見を施設職員につなぐことにより、施設職員も検討するのではないかと思う。
竹見課長	子育てふれあいセンター職員に提供するということか、それとも子育てに関連する施設全てに提供をするということか。
鈴木委員	子育て関連施設全てにこの情報が行き渡ると、どういった方法で子育て支援が手厚くできるのか、各施設での検討材料になると思う。
竹見課長	検討する。
西田委員	70%以上の方が子育てしやすいまちであると評価していただいているのは市教委としては誇るべきであると思う。市民から一定の評価をいただい

竹見課長	<p>ると思ってもよいと思う。いろんな意見があったが、財政的なことでできないこともあるので、それなら丹波篠山市として、例えば、素敵な制度であると意見もいただいている My 助産師制度のような、大きな予算がなくてもできるソフト面の工夫で乗り切っていくべきかなと思った。</p> <p>アンケート結果で気になったことは、地域限定支援事業は政策である程度仕方がないかと思うが、この結果にも地域限定はおかしいという意見もあった。子育て世帯についてはどこに住んでも同じ支援を受けたいと思われる。</p> <p>フルタイム世帯には子育てしにくいという意見であるが、幼稚園終了後の預かり保育の実施や、病児保育も延長したがまだフルタイム勤務には対応していないのか、どういう点なのだろうかとその部分大変気になる。</p> <p>アンケートを実施して市施策に反映するのは良いが、アンケートに回答した方について何も情報提供しないのは非常に不親切だと思うので、結果の公表について事務局も検討してほしい。</p> <p>地域限定支援事業については、市全体に広げてほしいという意見が沢山見受けられたので、子育て企画課から担当課に結果をつなぐ。</p> <p>このアンケートで事業を初めて知ったという意見が多くあった。市の取組事業を子育て世代に知っていただくことも目的としてアンケート実施したので、一定の成果はあったのではないかと思う。ただ、情報発信はまだ足りていないと痛感したので、今後更に情報発信に取り組んでいく。</p> <p>アンケート結果の市民への情報提供については検討する。</p>
垣内委員	<p>アンケートを実施するという事は、ある程度の責任が伴うことだと私は考えている。10年以上前であるが、私が教育委員になる前に、子育てに関するアンケート実施を提案したことがある。その時に、アンケート結果は良い意見もあれば悪い意見もあり、それに答えていく必要があり、その責任があるとその当時の教育委員会に言われたことがあり、その通りであると思う。今回子育てがしやすいまちであると7割の方に言っていただきそれはありがたいが、「子育てしにくいまちである・どちらかといえば子育てしにくいまちである」と回答された3割の方について、どう応えていくかその責任を背負ったということ感じてほしいと思う。今回大規模なアンケート調査を実施されると聞いて、私は大きな一歩を踏み出されたなと感じ、それは良いことだと思う。子育てしにくいという意見のうち、財政的な面あって全て応えることはできないが、どれに優先順位をつけて解決していくかということを示した方が良いと考える。</p>
竹見課長	<p>今回のアンケートは、小学校以下の方対象の悉皆調査ということで、実施に当たって相当の覚悟を持たなければいけないこと、その覚悟で取り組んだ。結果を見させていただき、「子育てしやすいまちである・どちらかといえば子育てしやすいまちである」との回答が70%であったことは受け止めるが、一方で「子育てしにくいまちである・どちらかといえば子育てしにくいまちである」と回答された30%の意見の中で、経費のかかるもの、かからなくてもすぐに実行できるもの、経費をかけてでもやっつけていかないといけない事業</p>

	<p>もあるので、精査していく。</p> <p>市民に対してもアンケート結果について公表するのか、子育て世代に向けて丹波篠山市として今後こういうことに取り組むというかたちでお知らせをするのかを検討する。</p>
丹後教育長	<p>報告 4「令和 4 年度中央公民館事業の実施状況について」中央公民館報告を求める。</p>
大路館長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
鈴木委員	<p>家庭教育支援事業の“赤ちゃんがきた！”について、2 回目、3 回目のセッションで定員に満たず中止になったとの説明であったが、その後、対象者へ何か手立てはあったのか。</p>
大路館長	<p>これまでから定員に満たず中止とした場合、代替等手立てをしていないので同様の対応をした。</p>
鈴木委員	<p>今後中止となった場合も特に何も手立てをしないのか。</p>
大路館長	<p>その予定である。</p>
鈴木委員	<p>“赤ちゃんがきた！”は、産後 6 ヶ月未満の新米ママが対象と決まっており、その方が年 4 回開催のうち 1 回参加できるというのが昨年度までのやり方であった。しかし、申込の期間が短かったので、今年度は開催を全 8 回開催にし、受講機会を年 2 回に増やした。“赤ちゃんがきた！”は、市が力を入れている事業だと思うが、期間内に人数が集まらないと開催ができない事業で、開催ができないことを理由に、受講希望者が受講できない。人数が集まらないから受講できないわけで、受講希望者に原因があるわけではない。それをそのまま手立てをしないでおくということはいかがなものかと思う。</p>
大路館長	<p>昨年度までは年 4 回開催し、対象者は 1 回は申込ができる状況で、人数も集まり概ね開催できていた。新型コロナウイルス感染拡大の影響なのか、今年度から回数を 8 回にしたことにより、分母が減ったことにより人数が集まらなかったのかは、もう少し経過を見ながら来年度以降検討をする。今後は子育て施策全般として、令和 5 年度以降は子育て企画課が担当となり実施していく予定であるが、スムーズに移行できるよう調整していく。</p>
丹後教育長	<p>今いただいたご意見も踏まえ、実施回数・方法も含めて、より良いかたちで子育て支援ができるよう調整していく。</p>
西田委員	<p>確認であるが、開催は応募数が少なくてできなかったでいいのか。</p>
大路館長	<p>このプログラムは、NPO 法人が策定している規定プログラムであり、そのまま用いて事業を展開している。“赤ちゃんがきた！”、“きょうだいが生まれた！”は、最少開催人数についてルールがある。対象者全員へのダイレクトメール送付や、健康課を通じて赤ちゃんの集まる場所での告知等、周知に努めてはいるが、今回は最少開催人数に満たなかった。</p>
西田委員	<p>最少開催人数は何人か。</p>

大路館長	“赤ちゃんがきた！”5組以上、20組以内、“きょうだいが生まれた！”6組以上20組以内である。
垣内委員	最少催行人数は旅行であり、収支が合わないという理由でそういう設定をするが、この講座は料金に影響するのか。
大路館長	昨年度までは、資料代として1,000円を徴収していたが、今年度は資料代も無料としている。 最少開催人数は、この事業は母親同士がその場を通じてつながりを持つということが目的で、少ない人数だと目的が達成できないという理由で最少開催人数が決定している。
西田委員	市内での出生者約200人で、保護者同士の結びつきも大事である。この事業で保護者同士のつながり機会が提供できるよう努めてほしい。
大路館長	参加できた受講者からは、つながりができて良かった等ポジティブ意見をたくさんいただいている。どうかたちが参加しやすいのか、広報は里帰りをされている方にも足りているのか等、どういった周知の仕方が良いのかも議論したうえで、できるだけ多くの方に参加していただけるよう展開していく。
丹後教育長	この事業は効果があるのでできるだけ開催できるようなかたちをとという各委員からのご意見なので、そのように取り組んでいく。
山本委員	公民館事業は地域を元気にする事業であると思っている。新型コロナウイルス感染拡大による影響で、地域実行委員会の判断で開催または中止されたりとなるが、自主事業の「かぞく de おいしんぼクッキング」は、飲食の事業であるが実施されたことはありがたい。参加者にも好評であったということで、コロナ禍ではあるが実施できる方向に持って行ってほしいと思う。
大路館長	自主事業は、「学びを止めない、学びの機会を提供していく」という考えのもと、できるだけ開催する方向で進めている。地域イベントは、地域毎に考え方も異なり、慎重にされる地域もある。市としては地域の意向を取り入れていくというスタンスで取り組んでいる。
丹後教育長	報告5「教育長報告」である。 8月18日、19日に全県夏季教育委員会研修会があり、教育委員と分担して参加したので、情報共有のため学んだことを紹介する。毎回定例校長会で報告してから定例教育委員会で報告するが、今回は日程の関係で、定例校長会前ではあるが先に報告をする。校長会で補足することがあれば意見いただきたい。 テーマは、「コミュニティ・スクールの推進」である。文部科学省等からの依頼を受けて、コミュニティ・スクールの導入及び拡充を推進する教育委員会や学校関係者等に対する継続的な助言及び支援、その他地域とともにある学校づくりの促進に向けて必要なことを行う「文部科学省CSマイスター」の方が37名おられ、今回の講師はCSマイスターの方であった。 いうまでもなく、学校・保護者・地域住民が目標やビジョンを共有し、協働

しながら子ども達を育む「地域とともにある学校づくり」を推進することである。

今回特に校長会で伝えたいのは、「3 学校運営協議会のポイント」で、委員の選定が一番大事ということである。決まったものはないので原点を資料に記載している。丹波篠山市では、5 年以上が経過し良い取組事例もあるのでその例を紹介したり、どのような委員を選定しているのかを参考に校長会で話したい。コミュニティ・スクールは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の平成 29 年の改正で、学校運営協議会を置くように努めなければならないとなっている。全国的には 33.3%、兵庫県は 19%しかないなか、本市は 100%の設置で誇るべき状況である。ただし、全国平均、兵庫県平均の数値は高校も含んでいる。

委員の任命については例示されているが、校長が推薦した方を教育委員会が任命することになるので、保護者、地域住民、学識経験者とあるが、その他適当と認める方とあるので、校長の思いで推薦いただければ委員になっていただける可能性が高いわけである。

本市の各運営委員会の平均委員数は、11.9 人、最小 9 人、最大 18 人である。学校長、教頭、主幹の 3 人～5 人が入っていることが多く、学校以外の 6 人から 13 人に入っている。

「2 学校運営協議会の主な役割」は、学校運営の基本的方針の承認が必須である。ただ講師によると、「OK」ではなく、一緒にやってみようという「Let's」であるということであった。

学校運営に関する意見であるが、委員は述べることができる。聞くことができるということになっている。

教職員の任用に関する意見は、本市の規則では規定していない。

再度「3 学校運営協議会のポイント」に戻るが、当事者意識を持ってやる、やりたい方ではなく頼みたい方を選ぶ。

説明・言いつばなしではなく、「協議」をし、それを「熟議」の場とする。

管理職だけではなく、教職員、若手・事務職員も含めて当事者である担当教職員、子どもの意見を聞くときには生徒会等も時にも入ってもらってもよい。

地域学校協働活動は、社会教育法で定められている活動ではあるが、学校協働活動推進員のコーディネーターが学校運営協議会に入り一緒になって活動することが理想である。これは二本柱とも言われる。学校協働活動が学校運営協議会と別の活動をすると複雑なことになるので、コーディネーターが人と情報をつなぎ協議に基づき一緒に活動することが良いと学んだ。

「4 学校運営協議会以外へも広がる学び」であるが、講師が言われた、学校運営協議会だけではなく、学校全体で大事だと思う学びを紹介する。

決定権を持った人、これは私も含めてであるが、学び続ける姿勢が大事である。これは何事においてもその通りだと思う。

教育委員会が「物語を語るように」これからの学校と地域の姿を語ること

垣内委員	<p>が良いということ教えてもらった。これも学校運営協議会だけではなく、いろんな場で、自分の理想を自分の「ことば」で語ることで相手に響くということである。</p> <p>これらのことは、コミュニティ・スクールの推進はもちろん、それ以外にも活かしたい。</p> <p>今回の「丹波篠山市子育て支援に関するアンケート調査」の結果で、56.1%の方がコミュニティ・スクールを知らないという回答であった。コミュニティ・スクールの活動を知ってもらい、理解を得られるより良いかたちで進めていくことが大事である。</p> <p>過去にも教育委員会で視察もしてきて、参考にしてきたつもりであるが、まだ理解できていない部分もある。最近知ったことは、私は篠山鳳鳴高校の学校評議員をしているが、篠山鳳鳴高校ではコミュニティ・スクールも同時に存在すると聞いた。校長によると、これが兵庫県型コミュニティ・スクールということである。踏襲する必要はないが、これは市としても知っておくべき情報かと思ったのでお伝えする。教育研究所でもう少しこの部分調査いただきたい。評議員とコミュニティ・スクールが役割を分担してすみ分けをすると言われていた。</p>
西田委員	<p>学校運営協議会設置の努力義務が設けられた時、学校運営協議会を設置しているところは評議員を置かなくてもよいということであったので、本市でも整えてきたはずである。</p> <p>文部科学省は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の両輪を狙っているが、本市は社会教育の方があまり動いていないので両輪になっていない。先日の社会教育委員・公民館運営審議会委員との意見交換会では、コーディネーターを学校運営協議会の方から働きかけて求めないと委員に出てこれない状況である。</p> <p>委員の選定が一番大事というのはその通りである。校長が地域を把握し、そういう人材を発掘してその方とつながっていないと難しい。マンネリ化しかけているので、コミュニティ・スクールは行事をすればよい、毎年同じことをしておけばよいという学校が増えてきているので、アンケート調査結果でコミュニティ・スクールを知らない人が56.1%にもなることに結びついている。</p> <p>篠山中学校では、4つの委員会のなかで生徒も入れて地域の方とどんな学校にしていきたいかについて継続的に議論をしている。このように真面目に取り組んでいる学校もあるので、良い事例をどんどん発表して交流すると良い学校運営協議会ができると思う。これは校長というより事務局が仕掛けていけないといけない部分である。</p>
丹後教育長	<p>事務局から仕掛けていくひとつとして、明日校長会で説明する。</p>
丹後教育長	<p>以上で、本日の審議は全て終了する。</p> <p>これをもって、第6回定例教育委員会を終了する。</p>